

林業における若者の就労拡大について

東北森林管理局 森林整備部 森林整備課 関岡春香
資源活用課 塚田夢人

1. はじめに

近年では、人工林の蓄積が充実してきており、森林資源としての成熟が進む一方で、成長旺盛な若齢級がごくわずかとなっている。そのため、持続的な資源の活用及び地球温暖化対策における森林吸収量の確保に向け、伐採・再生林による森林資源の若返りを図る必要がある。また、現行の全国森林計画では前計画と比較して 1.6 倍の主伐量が計画されているなど、政策面からも事業の増加が見込まれる。これらの事業を円滑に進めていくためには様々な課題が挙げられる。

中でも林業労働力の確保は重要な課題とされている。総務省「国勢調査」によると、近年の東北地方における林業従事者数は、平成 17 年では 9,329 人、平成 22 年では 9,500 人とほぼ横ばいであり、青森県と岩手県では減少傾向にあった。このことから、さらなる従業者の拡大が必要であり、特に若手作業員の採用が求められている。

そこで、若者の就労拡大に向けて、林業の現場における現在の労働環境の認知に関する基礎的情報を得ることを目的とし、高校生を対象にアンケート調査を実施した。

2. 研究方法

平成 26 年 12 月、2 校の農林系高校に通う 2 年生を対象にアンケート調査を実施した。回答いただいたのは秋田県立秋田北鷹高校の緑地環境学科と岩手県立盛岡農業高校の環境科学科の男子生徒 51 名と女子生徒 13 名の合計 64 名である（表 1）。

表 1. 所属学科・コース別の分類

高校	学科	コース	回答数		
秋田県立 秋田北鷹高校	緑地環境	森林環境	24	森林系コース (36名)	
		林業	6		
		森林産業	3		
岩手県立 盛岡農業高校	環境科学	森林文化	3		森林系以外のコース (20名)
		植物バイオ	11		
		動物微生物	9		
		不詳	8		
計			64		

アンケートの内容は、一般的な問い4つと林業系の問い9つの計13問である(図1)。林業系の問いの構成は、⑤で経験、⑥で興味・関心、⑦で林業の意義について、⑧～⑪で写真や資料を使って林業の現状を紹介、林業の現場が一昔前から変化していることを知っているかを質問した。⑫で現場の就労意欲について質問した。また、⑥と⑫に関して、林業の現状を紹介する前後によく似た2つの問いを設け、回答結果を比較することで、林業の意義や現状を紹介した効果を検証できると考えた。

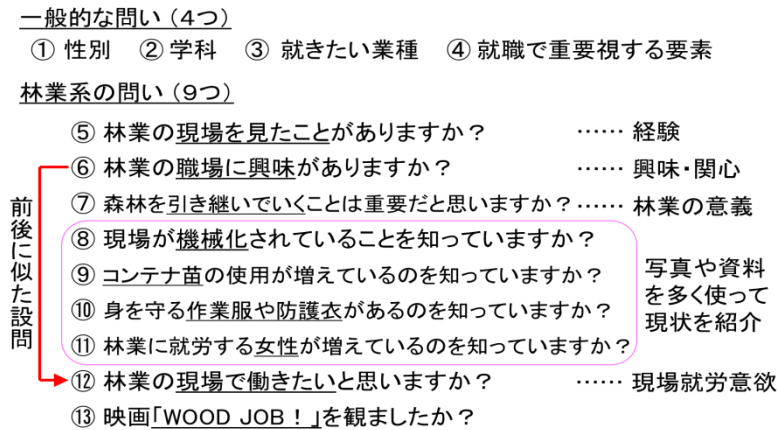


図1. アンケートの内容と質問の構成

3. アンケート調査の結果

それぞれの問いについて、質問と回答結果を示す。

(1) 一般的な問いのアンケート結果

①性別、②所属学科とコースは前述しているので省略する。

③「就きたい仕事の業種を教えてください。(選択肢・3つまで回答)」

学科に因らず「未定」「サービス業」が上位2つとなった(図2)。森林系コースと森林系以外のコースを比較すると、森林系コースでは「生産業」「建設業」「保安業」が多く、森林系以外のコースでは「事務」「販売業」「運搬業」を多く選ぶ傾向があった。

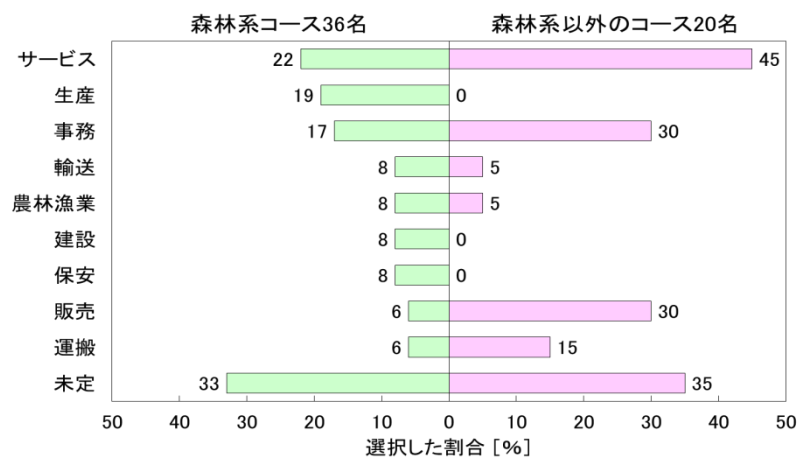


図2. 就きたい仕事の業種

④「仕事を選ぶうえで重要視する要素を教えてください。(選択肢・複数回答)」

どちらとも似たような傾向となったが、森林系コースでは「給与」「職種」「やりがい」「休日」の順に多く、森林系以外のコースでは「労働時間」「勤務地」をやや重視していた。

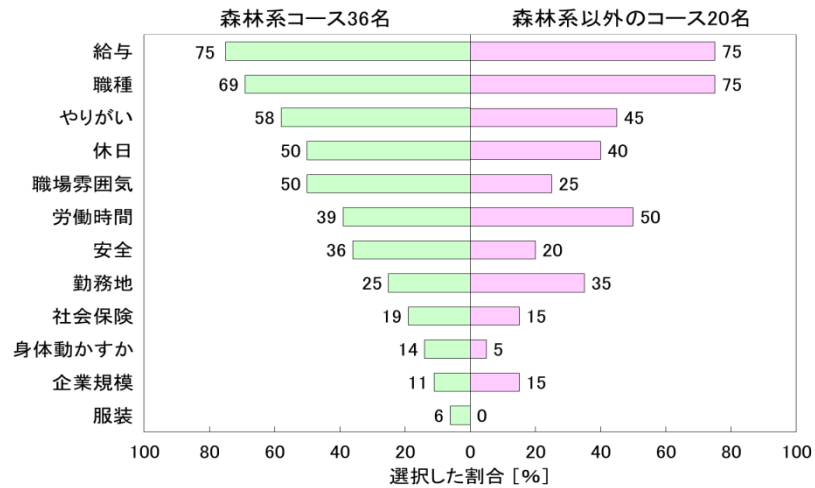


図3. 仕事を選ぶうえで重要視する要素の結果

(2) 林業系の問いのアンケート結果

⑤「林業の現場を見たことがありますか？」(表2)

森林系コースでは92%、森林系以外のコースでは35%が「ある」と回答した。

⑥「林業の職場に興味がありますか？」(表2)

森林系コースでは、69%、森林系以外のコースでは35%が「ある」と回答した。

⑤・⑥のどちらの問いにも、森林系コースの生徒で「ある」と答えた割合が高くなった。

表2. ⑤と⑥で「ある」と回答した生徒の割合 (%)

問い	森林系 36名	森林系以外 20名
⑤「現場経験」	92	35
⑥「職場への興味」	69	35

⑦「地球温暖化防止、自然環境の保全等の役割を果たしている森林を将来に引き継ぐ事は重要だと思いますか？」

森林系コース、森林系以外のコースともに全員が「思う」と回答し、森林の重要性は理解してもらっていた。

⑧「林業の現場が機械化されていることを知っていますか？」(表3)

この問いでは、機械の写真と各県別の高性能林業機械の導入実績を紹介した。アンケートの結果は、森林系コースでは89%、森林系以外のコースでは90%とほとんどの生徒が知っていた。

⑨「省力化、労働強度の軽減のため、植栽にはコンテナ苗の使用が増えていることを知っていますか？」(表3)

この問いでは、省力化・労働強度の低減や、ヨーロッパでは広く普及しているということも紹介した。結果は、森林系コースでは14%、森林系以外のコースでは25%と森林系コースでも低い数字となった。

⑩「チェーンソーなどから身を守る作業服・防護衣があることを知っていますか？」(表3)

実際の写真を併せて紹介した。結果は、森林系コースでは92%、森林系以外のコースでは65%の生徒が知っていた。

⑪「林業に就労する女性が増えていることを知っていますか？」(表3)

NHK「ニュースおはよう日本」で特集された際の記事を併せて紹介した。結果は、森林系コースでは22%、森林系以外のコースでは30%と認知は低い結果となった。

表3. ⑧～⑪で「知っている」と回答した生徒の割合(%)

問い	森林系	森林系以外
	36名	20名
⑧「現場の機械化」	89	90
⑨「コンテナ苗の使用増加」	14	25
⑩「身を守る防護衣」	92	65
⑪「女性の就労増加」	22	30

⑫「林業の現場で働きたいと思いますか？」

「思う」を3段階に傾斜をかけて「思う」「考えたい」「機会があればやってみたい」とし、「思わない」「わからない」と併せて5択で尋ねた。森林系コースでは76%、森林系以外のコースでは50%の生徒が就労意欲を示しており、内訳を見ると森林系ではより強い意欲を示していた（図4）。

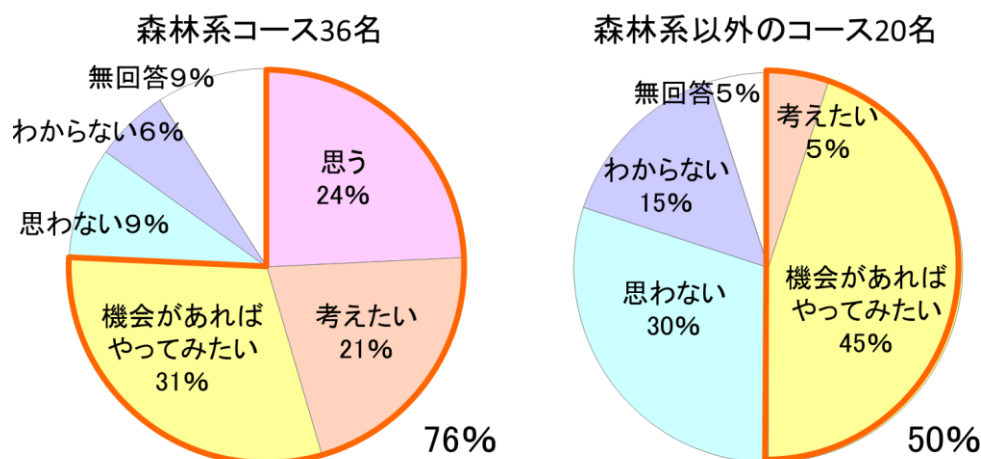


図4. 現場への就労意欲結果

4. 考察

(1) 林業の現場の現状の認知について

林業の現場の現状についての認知を比較したところ、認知の高かったものと低かったものに分けることができる。認知が高かったものは、「現場の機械化」「身を守る防護衣」についてであり、ともに森林系コースでは9割の生徒が知っていた。一方、認知が低かったものは「コンテナ苗の使用増加」「女性の就労増加」であり、それぞれ3割以下の生徒しか知らなかった。これらの結果から、林業の現場における機械化は農林系の高校生には一般的な情報となっており、防護衣についても高校の実習や授業で扱う機会があるものと予想される。そして、一般的に知られている情報や学校で扱う内容はよく知られているが、「コンテナ苗」や「女性の就労増加」などまだまだ知られていない情報があることがわかった。

(2) 林業の現状を紹介した効果

林業の現状を紹介した効果を検証するため、⑥と⑫の回答を比較した（図5）。森林系コースでは、林業の職場に興味があると答えた生徒、働く意欲があると答えた生徒はともに69%で、現状を紹介する前後での数値上の変化はなかった。それに対して森林系以外のコースでは、林業の職場に興味があると答えた生徒は35%、働く意欲があると答えた生徒は50%となり、15%の増加が見られた。この結果から、林業の現場の現状を知ることによって、特に専門外である森林系以外のコースの生徒の林業への就労意欲が高まることがわかった。

⑥ 林業の職場への興味

⑫ 林業の現場で働きたいと思うか

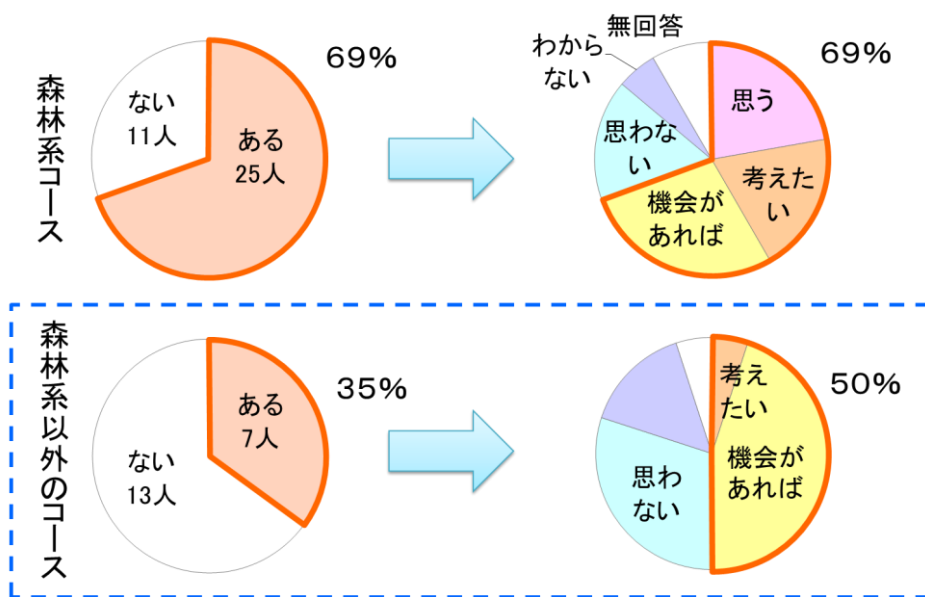


図 5. 林業の現状紹介効果

5. 結論

上記の2つの考察から、林業の情報を得る機会や現場を見る機会を増やすことが若者の就労拡大に繋がることが推察される。ただし、今回のアンケートでは農林系の高校に対してのみアンケートを行ったこと、回答数が分析に十分ではなかったこと等の課題が残った。そのため、農林系以外の高校生も含めて調査対象を拡大し、またイベント等との融合を図るなど、さらなる検証を行う必要があると考える。

ちなみに・・・

⑬ 「今年5月に公開された映画「WOOD JOB! (ウッジョブ)」を観ましたか？」

この問いは、「観た」「知っていたけど観ていない」「知らなかった」の3択で尋ねた。結果は、12月のアンケート時点で観ている人はいなかったのので、映画館が遠くて行けなかった人たちにも、ブルーレイやDVDなどで観てもらえることを期待している(図6)。

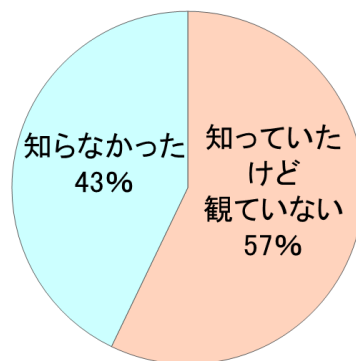


図 6. 「WOOD JOB! (ウッジョブ)」を観たか